

學脩身書

尋常科
生徒用

蘭印

一

C /

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 9 1 5 2 a

福岡教育大学蔵書

T1A3

22

Se17

文部省檢定濟

成美堂編

尋常科
生徒用

小學脩身書

東京 成美堂發兌

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ
樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億
兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國
體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民
父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉
已レテ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ
智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ
開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義

勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ
如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民
ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ
中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ
咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

シベスウカウカニハチチ



シベスニツゼンシハチダモト

下河辺行平
義を以て
島山重忠
の死を止
む



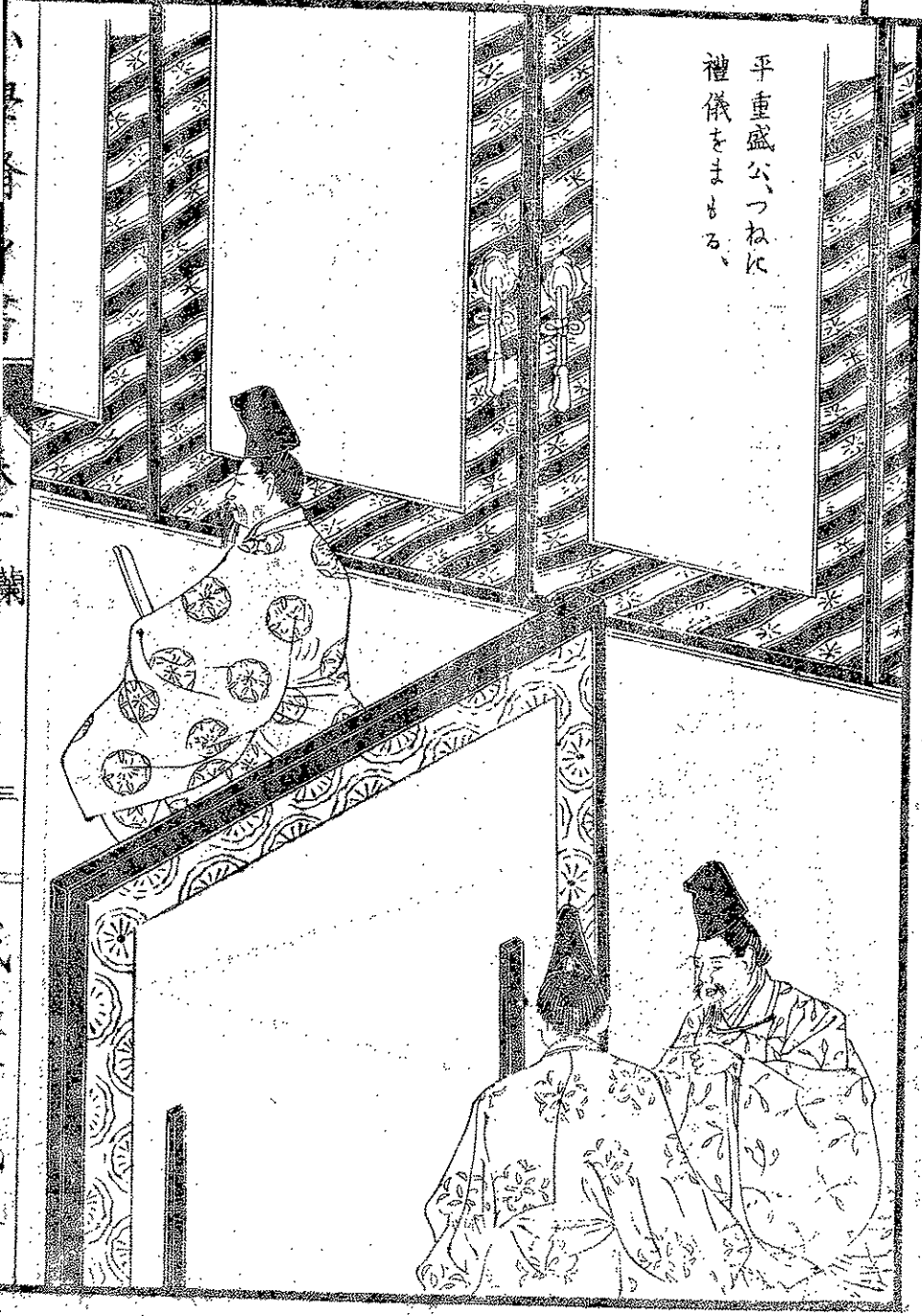
シベスクジマツムハイダウヤキ

億計、弘計、二皇子
歌舞に托して、皇
胤たることをさし
したまふ



月身堂藏版

シ。ベスニメヘカヒヲトゴソモ



平重盛公、つねに
禮儀をまよる。

シ。ベフマヤウヲシウケ



宗齋旅僧と
師恩をかたろ

學仙真言

卷

月美堂雜席

シベムトツクヨヲンモクガ

堀保己一源
語を講す

美堂藏版

卷一

美堂藏版



シベルモマヲクヤンケ

酒井忠勝、儉約
を説きて、近臣
をさす

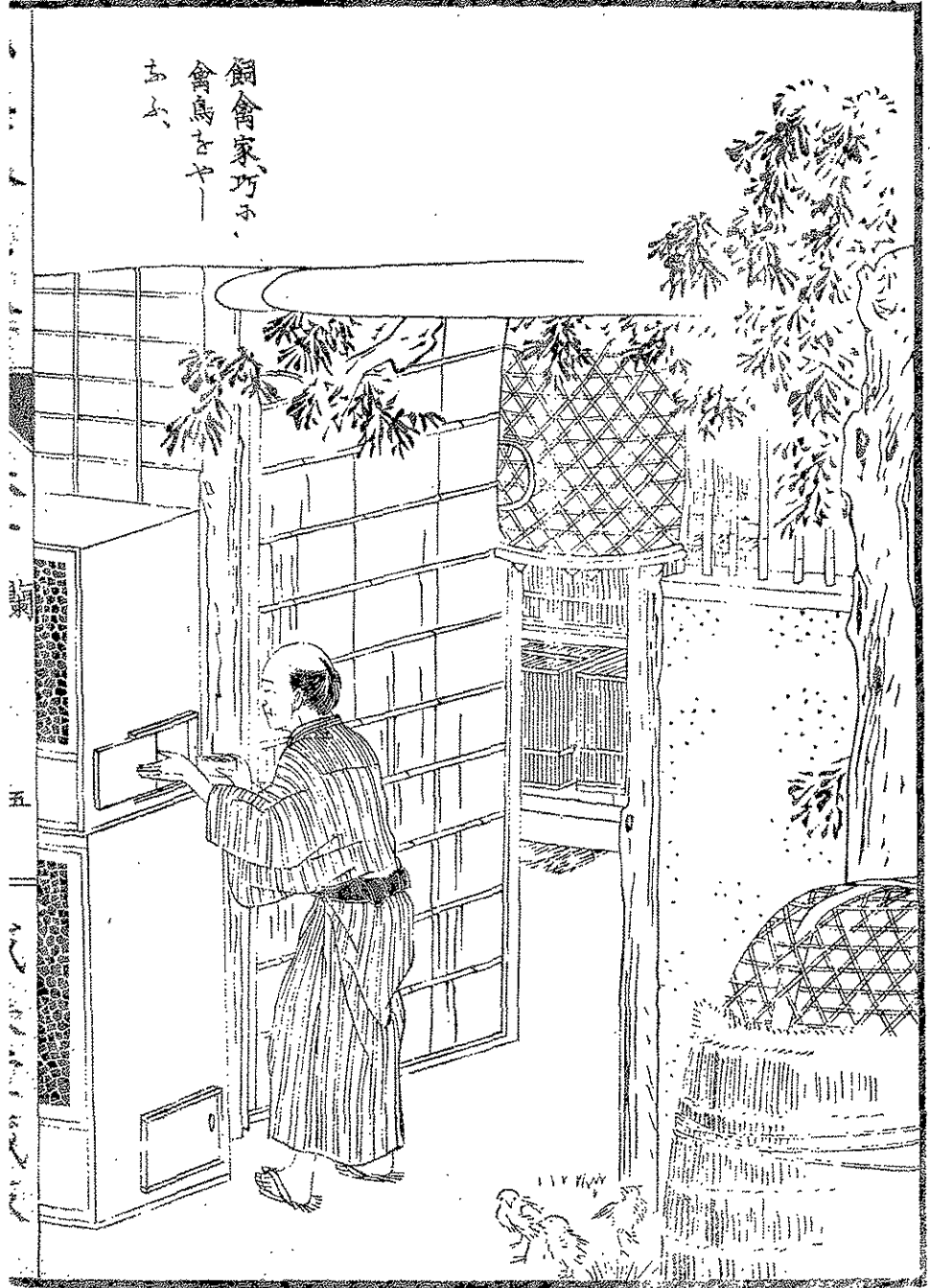
小學修身書

卷一

美堂藏版



シベスニカヤコスヲダラカ



銅舎家巧
會馬さや
ちや

シベスニキヂウヤシモトゴニナ



藤原秀衡、秋の
山ありびへ
三子のこころを
こころを

藤原秀衡、秋の山ありびへ三子のこころをこころを

藤原秀衡、秋の山ありびへ三子のこころをこころを

アヤ マチ アラ バス ヤ カニ アラ タム ベシ

板倉重宗、
田家の兒子
の言小感す



小學修身書

卷一

六

成美堂藏板

ギンナ ヒノトハ アレハ ムシ

真田信幸
近習を鳥
籠に入れ
て、仁慈の
道をさす



小學修身書

卷一

成美堂藏板

ヨサシヲサメタハクベシ



汲水夫業
務不絶也

成美堂藏板

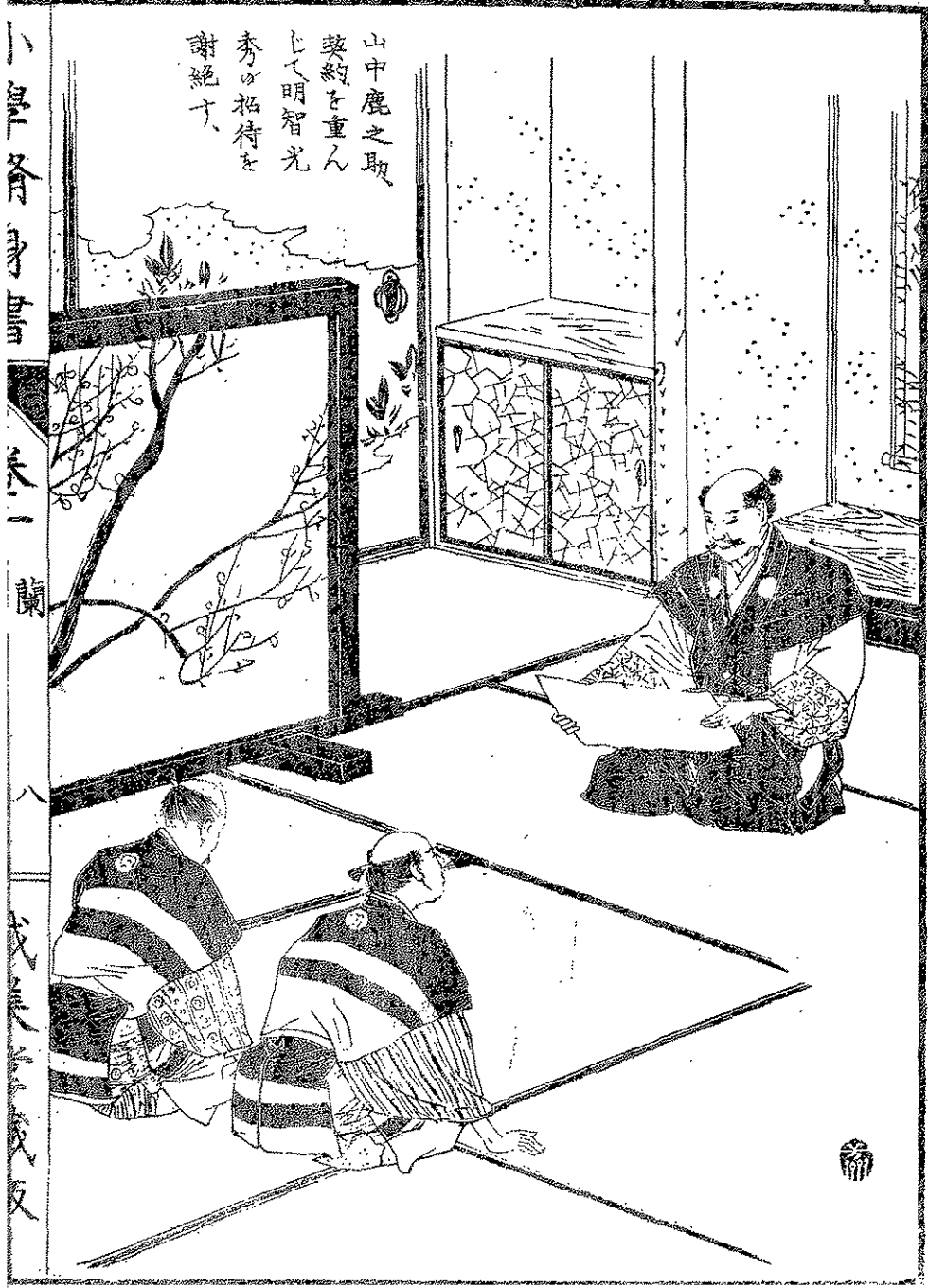
ヒトケイニシタガフベシ



觀世大夫、賤
者、四言をよそ
ずして、藝を
なすよ、

晋

ズラカベスラチリトハノモ



山中鹿之取
契約を重ん
じく明智光
秀の招待を
謝絶す

小澤啓事

文政十一年

シベムタラアハセクキシア



少年悪弊に深みて
童子に朝けらる

小澤啓事

卷一

月三十一日

シベフガタシニテキオノニク



林子平
國法を
まもる

蘭
九
成美堂藏版

シベクラタハニメタノトヒ



野中兼山路を
海にすてて、公益
を成す

成美堂藏版

キミノオノメニハチノチヲモヲムコトナカレ

徳川家康公、
織田信雄公
を助けし豊
臣秀吉公と
戦ふ



小島高徳

卷一

十

徳川家康

キミノオノメニハチノチヲモヲムコトナカレ

児島高徳、櫻
樹に詩句を
題す



小島高徳

卷一

徳川家康

シベルモマニツセイタヲニク

吉田松陰國家のために
外國に航せんとす



小學修身書

成美堂

小學修身書卷二

成美堂 編

あち はは の わん を
あす る べ から ず。

小學修身書

卷二

成美堂

難波次郎
老母を仕
へて孝を
つくす

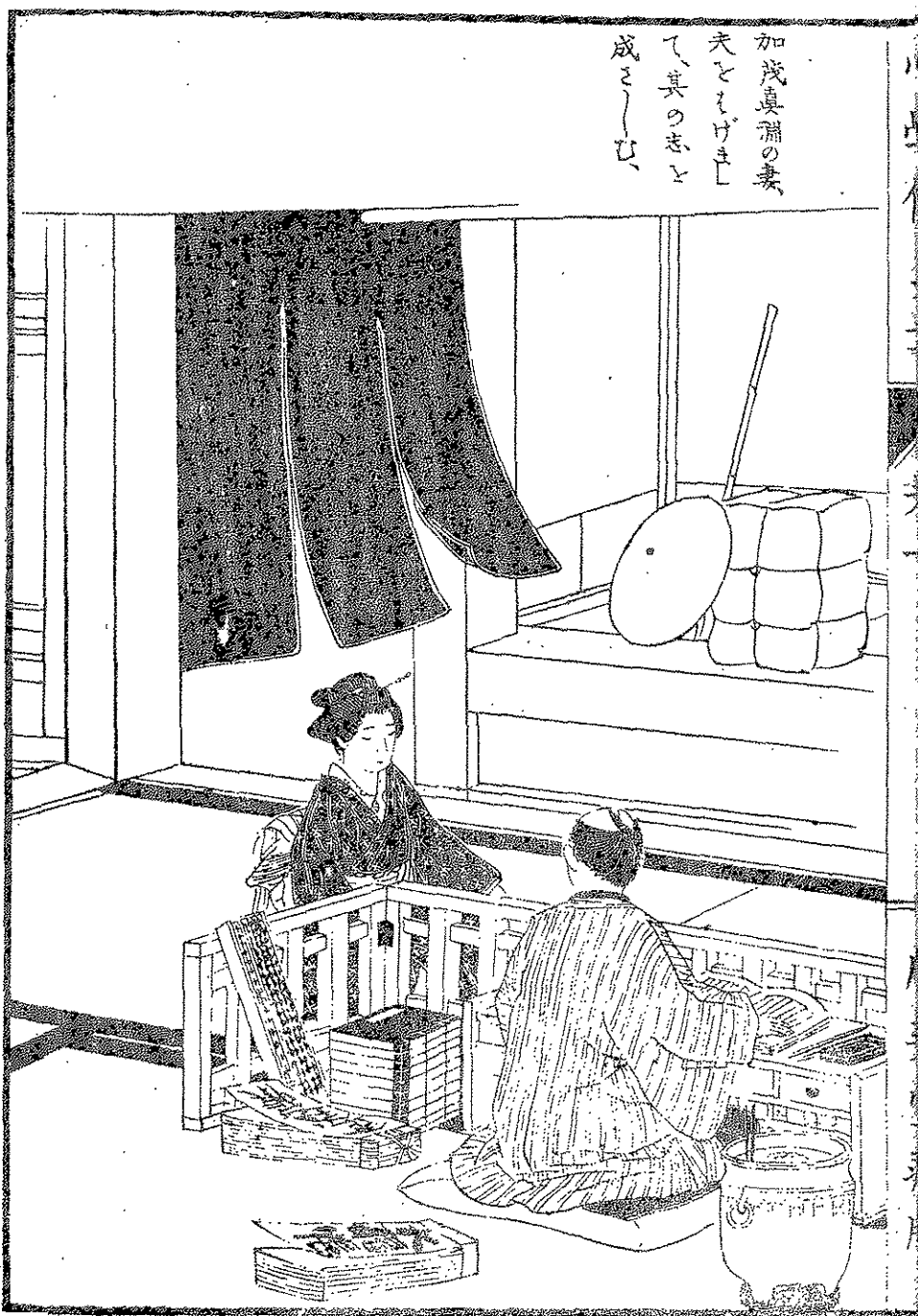


まはらだいはらして
もしたくす。



ふうふはなかに
くすぶ。

加茂真淵の妻
夫ともげま
て、其の志と
成さしむ、



ともは、ゆらびて、ま

どはる。う。

加茂真淵の妻
夫ともげま
て、其の志と
成さしむ、

羽柴秀吉
會津秀長に
佐久間信盛の
関を勤む



すこりのものもむ
なしくすつばからず。

大坂の陣 羽柴秀吉の功績



土井利勝
儉約を
もる

しんがいはつとめとな

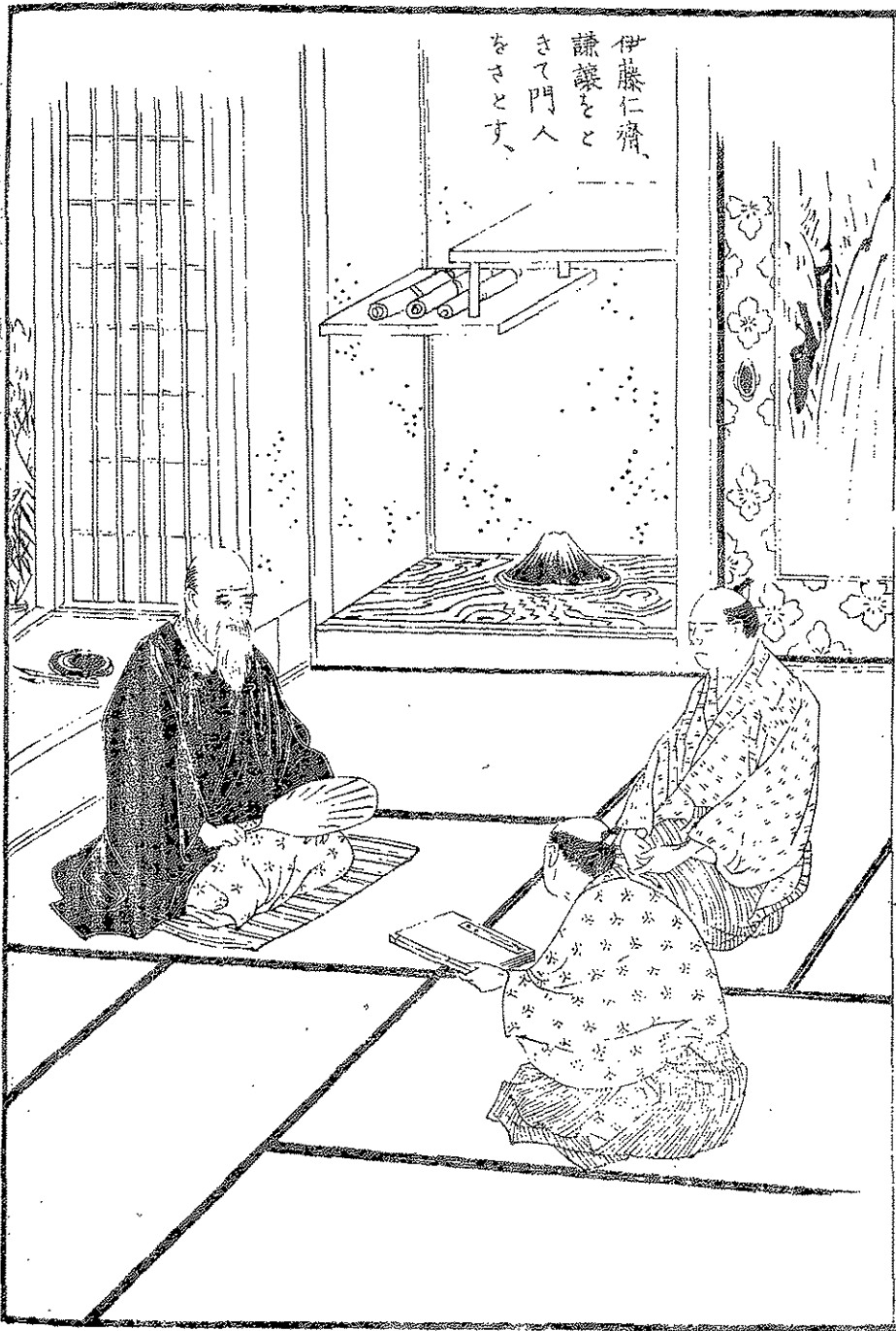
らふべし。

新井白石夜冷水
を浴して學問を
勉む



いかなるこゝにもかん
にんはたいせつなり。

新井白石夜冷水
月美生辨片



伊藤仁齋
謙讓を
さして門人
をさとす

ちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり。



環原下傳馬の
後に近づかず

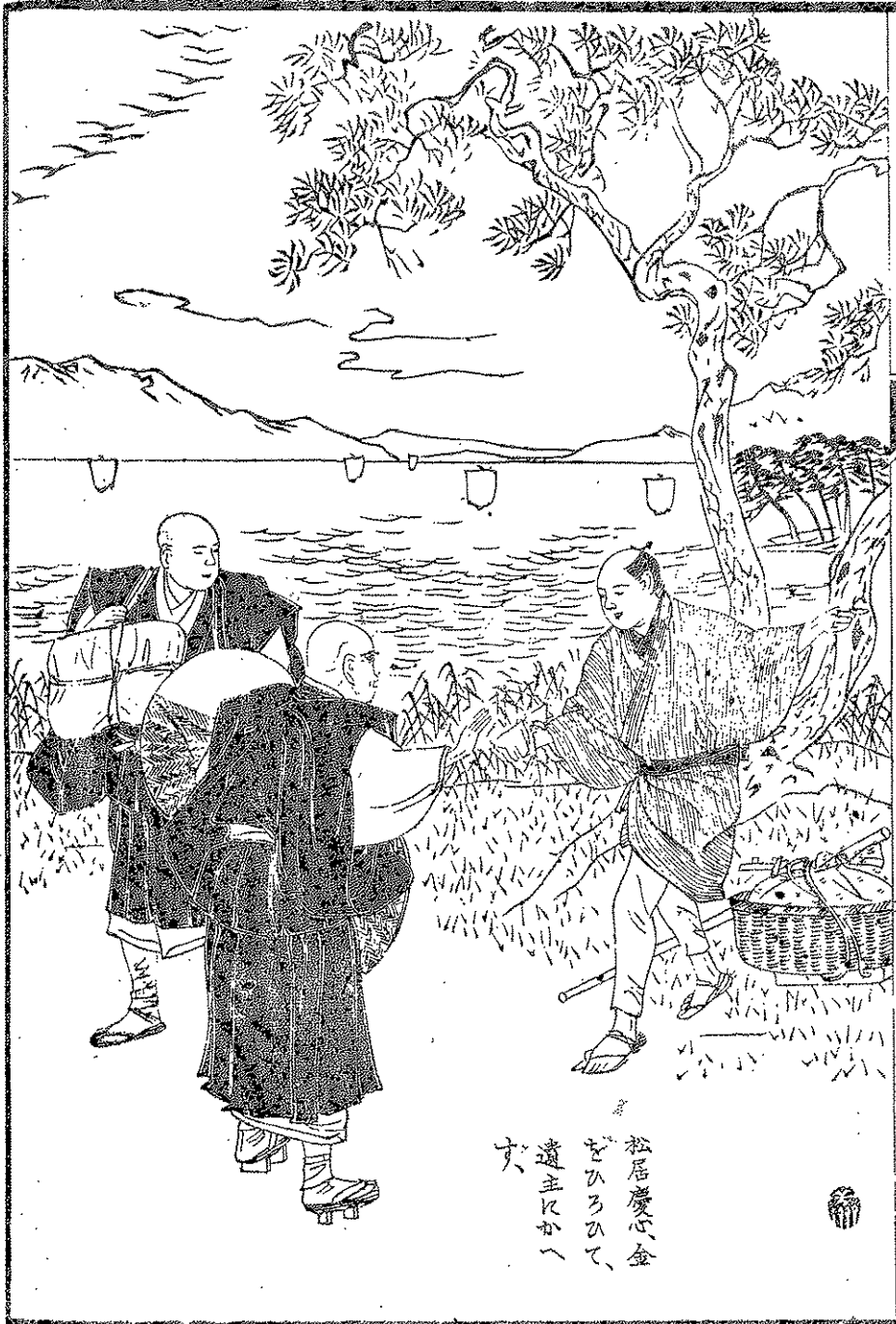
われよりよわきも

のをばたすくべし。

新羅實禪、窮民
をあはれみて自活
の道を教ふ

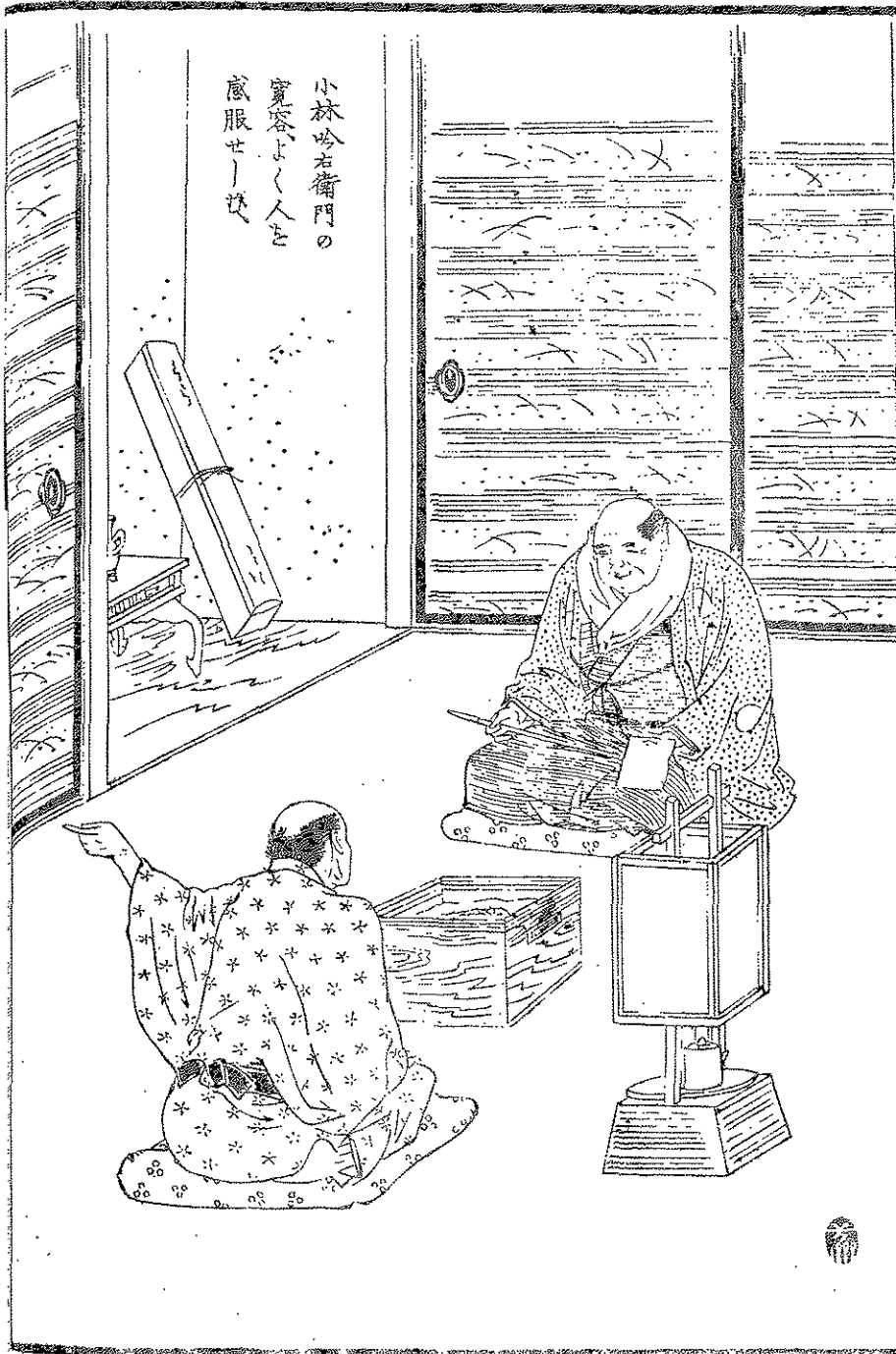


みるひとなりとして
あはれみざるべからず。



松居慶心金
 ぎひろひて
 遊主にかへ
 大

ひとのあやまちはおぼ
 めにみゆるすべし。



なにせよも、ごんねんから

かたがたいちなり。

塚本物右衛門、
志と立て、故
郷と出づ。



ノミニトイフ

こころをいふく
てものににれうるこ
となかれ。

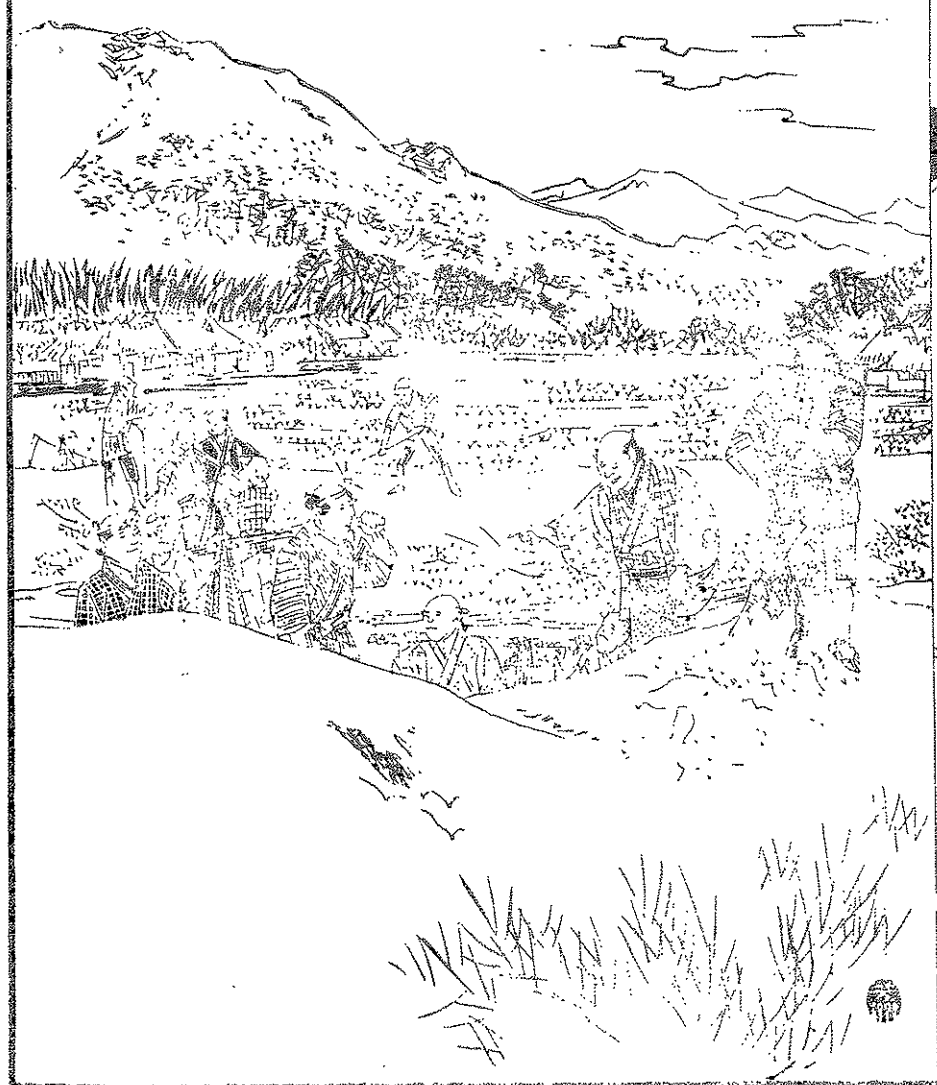
ノミニトイフ



小早川隆景、
跨驛に明の大
軍をやぶる。

ふのためになるわ
 ざに、ちからをつく
 すべ。

東野伊右衛門
大和川に堤をき
がきて公益をい
るゆけり。



くにのむきそは、か
ならず、うむく
づから
ず。

織田信長公京都
を守護せしとき
士卒のらんぼう
を制して規律を
正しくけり、



あみがなほ

ちよにやちよに

おぢいれづの

いはほとなりて

いぢのむすぢ。

中臣鎌足
中大兄皇子
をたすけた
てまつりて
中興の大業
と云す



ちゅうぎのたぬに
は、い、き、も、す、つ、ぶ

！。



くにきわぬか
はくをたぬか
あふすべし。

成美堂藏版



渡邊華山
むつしの
罪にたぢ
けぬ國
と思ふ志
すべし
おぼんこ
おぼんこ
おぼんこ

明治廿七年二月廿三日發行 定價 一ノ卷 九錢
 明治廿七年四月十五日印刷 同 二ノ卷 拾錢
 明治廿七年四月十九日訂正再版發行 同 三ノ卷 拾錢
 同 四ノ卷 拾錢

明治三十一年
 六月
 成美堂

發行兼印刷者 成美堂三浦源助
 岐阜縣岐阜市米屋町三番戶



賣捌所 成美堂支店
 東京市日本橋區本町二丁目

代理店 石井鈞三郎
 大阪市東區橋本町四丁目

